

■ **あなたのことは知らない、
なおもって相違点を尊ぶ**

修正： 2019.06.01

投稿： 2019.06.01



●あなたのことは知らない、なおもって相違点を尊ぶ①

「あっ！ごめん！今の失言だわ！（^◇^）」

って、それ、**まったく言い訳になっておりません。**

そう思ったからこそ出るのが表情であり、
それは誰かに伝えたいときに言葉になります。
ということは、**失言**とは、

1. 心の中ではそもそもそう思っていた。
2. その思いを誰かに伝えようとして言葉になった。
3. 後になって冷静に考えて、
「さっき言ったことは、言うべきことじゃなかった…」
と反省した。

ものということになります。

「ごめんごめん！今は無し！（^◇^）」

って、**まったく無かったことにはなりません。**

そもそも心の中でそんなことを思っていなければ、
口から出ることも無かったのですから。

「口から出た」ということは、心の奥底では、
「確実にそのように思っていた」ということになります。

(「内から外へ」の原則です)

ゲームのように、リセットボタンを押せば
無かったことにできる、というわけではありません。
思っていたということは**確実**なのです。

政治家も「**失言でした。取り消します。**」と、
たびたび発言を撤回する事態に陥っておりますが、
無かったことにはなりません。

心の中ではそう思い続けている、ということなので、
仮に発言を取り消したとしても、信用までは取り戻せません。

(続)

//=====//

●あなたのことは知らない、なおもって相違点を尊ぶ②

あなたが苦しんでいることなんて誰も知らないですし、
あなたが努力している姿なんて誰も見ていないでしょう。
そもそも、誰もあなたのことなんて知りもしないのです。

私たちは、少しでも多くの人に、少しでも多くの自分を
知ってほしい、理解してほしいと思いながら生きています。
私たちは、他人から理解されない箇所に孤独を感じるのです。

以前、結婚相手に何を求めますか？

という質問に対して、ある女性はこう答えていました。

女性「夫に自分のことを知ってほしいです。

自分の世界を共有したいですね。」

過去に罪を犯し刑務所に入所していたその女性は、
結婚するにあたって、不利になる自分の過去を、あえて、
相手の男性に洗いざらい伝えた経緯を語りました。
その上で結婚に至ったという話です。

「(悪いことをした、そんな)自分のことを理解してほしい！」
との思いがあったからこそでしょう。

その女性に限らず、多くの女性が、
相手からの共感を得たいと願っているところです。が、しかし、

それでも、自分の全てを知ってもらうことはできません。

どんなに自分のことを理解してもらおうとも、
誰にも理解されない奥深い部分はあるわけであり、
この理解されない深い部分こそが**真に孤独**であり、
同時に、**唯一の自分**と言える要素でもあります。

「**相違点を尊べ!**」と言われております。それすなわち、
「**誰にも理解されない部分を大切にしろ!**」ということでもあります。

もし、あなたに、誰からも理解されない孤独な部分があるなら、
それはあなたの相違点であり、人としての魅力でもあるのです。

(続)

//=====//

●あなたのことは知らない、なおもって相違点を尊ぶ③

「**みんなちがって、みんないい。**」、**個性**があるからこそ、
私たちは一人一人が輝き、お互いに切磋琢磨できるものです。
ですが、この個性にはそもそもシビアな理由があります。

動物で考えると分かりやすいかもしれません。

「**恐がり**」や「**好奇心旺盛**」と言った性格の違いは、
人間のみならず他の動物にもあります。

例えば、サバンナで暮らす「**恐がり**」な子供は、
親から離れすぎないように気をつけ、
常に親から一定の範囲内で行動しようとします。
そうすることで、敵から襲われても生き延びやすくなります。

親が守ってくれるからです。逆に、

「**大胆**」な子供であれば、ある程度の距離まで親から離れ、自由にその辺を探求するものです。

しかしこのとき、もし近くに天敵がいれば、

たちまち襲われることとなります。

つまりこの場合、「**恐がり**」な子供の方が

生存確率は高くなるということになります。

だからと言って、「**恐がり**」な個体だけで構成された集団が

生き延び続けられるかという、そうでもありません。

もし食料が不足し始めると、

自発的に行動し食料を確保できる個体が優勢になります。

逆に「**好奇心旺盛**」な子供の方が生き延びられるのです。

どちらが生き残りやすいかは、

そのときそのときの環境によって変わります。

そして、環境がどう変化するかは分かりません。よって、

集団には、多種多様な個性を持った個体が必要なのです。

私たち人間の場合はどうでしょうか。

みんな似たような考え方では**リスク**に弱くなります。

異なる考え方を内包する形でチームを形成した方が、

集団や組織は生き残りやすくなるものです。

(完)

//=====//

Web サイト :

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者：

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)